

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2004.2.8 No.10

北海道ボランティア・レンジャー協議会

冬芽の観察

2月に入ると、木の枝先につく冬芽が12月の頃よりすこし膨らんできたような気がします。春を待つ気持ちがそう見えてしまうのでしょうか。でもやはり、心なしか膨らんでいます。

冬芽とは落葉期から翌春の発芽期まで間の休眠している芽のことをいい、生物学的には「休眠芽」もしくは「抵抗芽」と呼ばれています。この休眠している現象には2つの見方があります。

1つは、温度や水分などの成長の条件が適していても、内部の要因によって芽出ししない状態で、自発休眠と呼ばれています。

2つには、外界の条件が整わないため芽出しできない状態で、他発休眠と呼ばれ、これが冬眠している冬芽のことです。

このような冬芽が枝のどこにつくかによって、いろいろな名称があります。枝の先端につくものを「頂芽」といい、枝の側面の葉腋につくものを「側芽」といいます。また、頂芽の周辺に輪生状に集まったものを「頂生側芽」といいます。ミズナラなどの頂生側芽は予備としての役割をもつと考えられています。頂芽が駄目になっても次の側芽、それがだめになったら別の側芽というようになっています。このような枝先の頂芽が枯死し、最上部の側芽が頂芽のようになることを「仮頂芽」と呼ばれています。

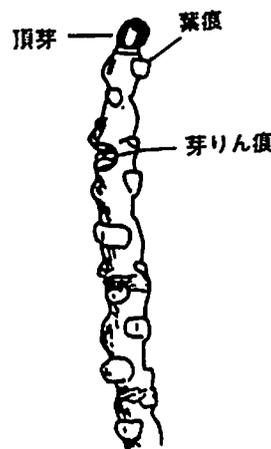


ミズナラ

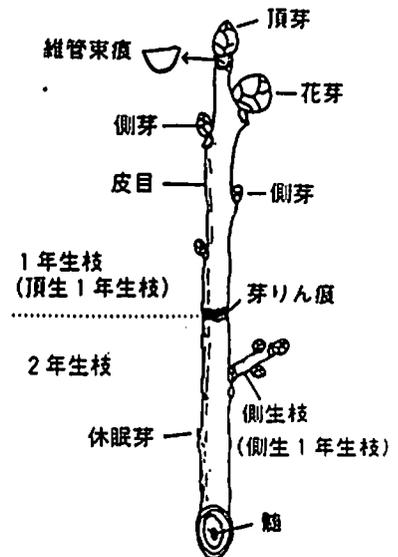
枝につく冬芽の観察とともに、枝の長さにも目を向けてみましょう。よく見ると長い枝と極端に短い枝をつけたものがあることに気づくでしょう。多くの木に見られるように節間が伸びて葉痕（葉がおちた痕）や冬芽が茎の上に間隔をあけて並んだ枝を「長枝」といいます。反対に節間が伸びずに、葉痕と芽りん痕（り

ん片葉が落ちた痕）とが交互に密について、いも虫状になり、その先端に一個の冬芽がつく枝を「短枝」といいます。このような短枝の木にはコシアブラ、ヤチダモ、カツラ等があります。

この時期、木の枝の様子や冬芽の観察をすると、いろいろなことに気付くでしょう。冬芽を枝の上からのぞくと、葉と同じように、対生、互生、輪生などの違いもよくわかります。



ヤチダモ
短枝



長枝

アトリの仲間

ふれあい交流館の窓から餌台に群がる野鳥をみていると時間のたつのを忘れてしまいます。野鳥の中での力関係がわかったり、餌の取り方などゆっくり観察できます。今公園内で、アトリの仲間を見つけることができます。餌台に寄ってこなくとも森の中を歩くと見られるでしょう。

アトリ科の鳥は世界で約125種、日本には17種が生息していますが、その内8種が繁殖しますが夏鳥はいません。アトリの仲間は円錐形の嘴が特徴です。この嘴は硬く、鳥により太いのや細いの、丸いのや尖ったものもあり形は微妙に違いますが、どの鳥も嘴は硬い種子を割って中身をたべたり、種子の皮を剥いだりするのに適した形をしています。

●シメ *Coccothraustes coccothraustes*

奈良時代には「ひめ」の名で、平安時代には「ひめ」「しめ」を併用、江戸時代から「しめ」と呼ばれるようになりました。「し」は地鳴きのシッで「め」は小鳥を表す接尾語という説があります。嘴の力は非常に強く、体重50gほどなのに50kg近い力が出せると言われています。

●マヒワ *Carduelis spinus*

平安時代から「ひわ」の名で知られ、鎌倉時代からは「ひは」とも書くようになりました。江戸時代に「べにひは」「かわらひは」と区別されるようになり「まひは」となりました。

●アトリ *Fringilla montifringilla*

アトリ類の代表格で、奈良時代から時として大群を作る鳥として知られ、名前も当時から「あととり」でした。「あととり」とは「集まる鳥」が略され「あつとり」「あっとり」と変化して「あととり」となりました。年により渡来数の変動が大きく、今年は少ないようです。

●ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

短い嘴と雄の赤い頬が特徴です。フイッフイッという鳴き声が口笛を吹くようなので、口笛の意味の「うそぶく」が語源です。

(大橋弘一著 鳥の名前 東京書籍 参考)

親雪のススメ

国語辞典など調べても「新雪」ならありますが「親雪」などという言葉はありません。先日、ある新聞のコラム欄にでていた言葉です。そのコラム欄には「克雪」・「利雪」と並列で「親雪」の言葉がありました。

雪のある地域に住む人たちは、好むと好まざるとにかかわらず雪と付き合いがいかなばなりません。除雪機や融雪機によって雪害を克服する、また雪を利用・活用する技術開発によって私たちの生活を豊かにする、これが「克雪」や「利雪」です。「親雪」とは雪に親しむ活動です。一例として雪祭りがあります。雪上の観察会、これは雪のある地域でしかできない観察会です。冬期間の観察会、これこそ親雪のススメです。

3月の観察会は？

日増しに春の気配が感じられてきます。ヤナギ類の花も見られるようになりました。木も芽ぶきの準備をしています。野鳥の鳴き声も心なしかはなやいで聞こえます。

3月14日(日) 早春の森の観察会 10:00~12:30 大沢口ふれあい交流館集合